

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472400346		
法人名	日本理化工業株式会社		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム はつらつ		
所在地	三重県津市芸濃町椋本5481-2		
自己評価作成日	平成22年1月22日	評価結果市町村提出日	平成22年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472400346&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 2 月 16 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者や家族の今迄通りの生活を大切に、地域と共に支える事を理念に掲げ、毎日の生活がより充実して過ごせるように、傾聴、受容、共感の気持ちで接し、様々なニーズの把握、生活意欲の向上、ゆとりと安心の確保に努めています。また、障害が重い利用者でも人生の最後まで安心と尊厳が保たれた生活を送れるよう、看取りの指針に則り、主治医、職員が一体となってより確立されたサービス体制の実現に向けて日々の活動に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

津市郊外旧芸濃町の新興住宅地の一角に所在する。評価を活かし、自治会に加入して公民館やゴミ集積所などの清掃活動などに出て、地域とのつきあいに積極的に取り組んでいる。ホームは1階と2階の2ユニットで、それぞれのユニットに職員が配属されているが、職員全員が全利用者を見る方針である。開設当初から管理者、介護支援専門員が同じ人で変わらず、ホームの理念に沿った支援が実践されている。利用者や家族が「ずっとここにいたい」という思いから、ホームで安心した生活を送られているのが窺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を毎朝職員で唱和している。職員は内容を念頭におき、日々の業務において実践することができるように努めている。	家族、利用者が「このままずっと此処で暮らしたい」と言われる言葉が、ホームの理念「安心」した暮らしを支えている表れと利用者目線で理念に添ったケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や毎月の施設の行事への参加を呼びかけ交流を図り、また関わりが継続していけるように働きかけている。	自治会に加入し、公民館やゴミ集積所の清掃活動の参加、日々の挨拶、幼稚園児の発表会をホームで披露してもらうなど地域とのつきあいに努めている。今年は、敬老会を自治会と共催とする試案も出されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議以外にも、地域の清掃作業、消防訓練などに参加させてもらい、その機会を利用して理解を広げる場としている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や地域の方々、市役所の担当職員にサービスの内容や考えを報告させてもらっている。より活発に意見を交換し、確実にサービスの向上につなげられるような体制作りが必要。	本庁、支所の担当者、包括の職員、自治会長や民生委員、家族などの参加を得て、奇数月に開催している。評価の公表や防災、看取りなどテーマを決め、活発な話し合いの場になっており、防災訓練の協力をしていただく提案もされた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の場や電話連絡などを利用し、意見や助言をもらったり、サービス内容の報告を行っている。	運営推進会議には、本庁、支所の職員の参加があり、また、利用申し込み状況を聞いたり、書類を持参し、情報収集をしたり、何かあれば相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	治療目的の点滴を優先する為に、家族の承諾を得た上で最低限の拘束をさせてもらうことがある。また、利用者の状態により、階段からの転落防止にホール出口の扉を施錠していた事がある。	やむを得ず拘束をしなければならない場合は、「経過観察記録」で記録され、家族に説明し同意を得ている。鍵は時間帯により開放もするが、2階からの転落、道路への飛び出しなど安全面を考慮して施錠している。	今後、拘束についての勉強会をしていきたい意向であり、期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員が集まって学ぶ機会は持っていないが、各自の知識により、虐待が見落とされることがないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度は今後必要とされる利用者の入所が十分に考えられるので、学ぶ機会をつくっていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族に向けて、利用開始時や終了のみではなく、常時不安や疑問に対しての対応をこころがけ、理解と納得していただけるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から利用者、家族との会話を持ち意見を尊重している。直接は言いにくいような事も意見箱を設置し、それを利用してもらうことで運営に反映させている。	運営推進会議に家族の参加、家族会の開催などで意見を聞く機会をもうけている。面会時には家族とのコミュニケーションをとるよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	短時間であっても、全員が参加できる会議の時間をとり、誰もが言えるようにして反映させている。	月に1回、会議を開催し、意見交換の場になっている。また、管理者へはいつでも話ができ、その都度、相談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は各職員の意見、希望を出来るだけ取り入れ、各自が向上心を持って働けるように職場環境、条件の整備に努めている。代表者へ月に一度報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会が主催する研修に参加している。また参加者がレポートを作成し、他職員もそれを読むことで知識の共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	イベントを通じ他施設との交流を持ち、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを密に図り、本人のニーズを把握し、本人が安心できるよう信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話や面接時等家族からの相談、質問には納得や理解が得られるよう説明を行い、意見箱の設置も行い相談しやすい環境づくりにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話を密にし、必要とされる支援を見極め対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や食事を職員と一緒にいたり、様々なレクリエーションの実施を通じてコミュニケーションの場とし、共に暮らすという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会をなるべく多くもっていただくようはたらきかけ外出、外泊にもつなげている。家族との絆を大切に、協力を支援し、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人やその場所忘れてしまわないように、日常の会話に取り入れ、関係が途切れてしまわないように努めている。	かつては、在宅時に親しんだ趣味の仲間が訪ねてくれたが、だんだん疎遠になってきている。今はホームが生活の場として馴染んでおり、回想法で傾聴に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の食事やレクリエーションなど人が集まる場において、トラブル等で孤立する方がいないよう利用者同士の快適な関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方やその家族であっても、電話などの相談があった際は助言や説明をさせてもらい支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアを行っていく中で、本人から希望や意向を把握した時は記録に残し、チームで取り組み支援できるよう努めている。	言葉で表せない利用者へは、いくつかの選択肢を示して自分で選べる支援をし、表情や態度、様子を見ながら、思いの把握に努めている。最近、利用者の孫の結婚式に、お祝いをしたいという希望を言われ、レタックスで自筆のお祝いレターを出す支援をした。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者の個別ファイルに職員が十分に目を通し、適切なサービスを提供できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	直接のコミュニケーションや月2回の往診によるドクターからの意見、ケアプラン、ケース記録、会議録等常に目を通すことにより、利用者の現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時にプランの説明を行い、意見、要望を伺っている。職員会議時でも個別ケアについて話し合い、利用者にも直接参加してもらい意見を聴いたりしている。	介護支援専門員が日々のケース記録や職員への聞き取り、家族や本人の思いを把握して計画書を作成している。毎月、カンファレンスをして、3ヶ月ごとにモニタリング、計画書の見直しがされている。変化があれば随時見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果、気づきや工夫は介護日誌、個別記録、申し送りノートに記録しており、職員は業務開始に必ず目を通してから業務にあたっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズを日々のケアの中から発見した際は、それを会議等で検討し、柔軟な支援サービスが実施できるよう多機能化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の利用を充分にしているとは言えない。それぞれの残存能力を理解、把握し、活かしながら楽しんで生活が出来るよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を受け入れ、今までの主治医を継続したい方はそのまま入所していただいている。必要に応じ、主治医は変更せず駒田医院の往診は受けたりと柔軟に適切な医療を受けられるよう支援している。	協力医とは医療連携をしており、毎週往診があり、ユニット交互に見て貰っている。眼科、歯科も要請すれば往診してもらえる。家族の都合が悪い時は、受診支援もしており、その都度結果を家族へ電話等で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医師、看護師との連携をとり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に訪問し、家族も交えて情報交換や相談を行っている。早期退院や早期帰所ができるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期まではつつつで過ごしたいと希望があれば、状態に応じて、医師、家族と共に密に連携をとり、チームで一体となった支援に取り組んでいる。	「医療対応確認票」で終末期についての指針をあらかじめ、本人、家族と書面で確認をしている。重度化した時は、その段階で医師、家族、管理者、看護師で相談し現状にあわせた対応を考えている。すでに、ホームで3人の方を看取った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていない。ドクターとの電話連絡などで指示を受け、実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を定期的に行っている。地域の方へも施設の連絡網に加わっていただくと同時に訓練にも参加していただいている。	スプリンクラーが設置されている。昨年は、自治会長はじめ、母体の会社(ホームの道路を隔てた所に三重営業所がある)の社員などの参加を得て2階からの避難訓練をされた。	さらに周辺住民の協力も得た、夜間を想定した訓練をされるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重して対応、言葉かけなど行っている。個人個人がそれぞれ違う価値観を有するため、対応も画一的にせず、一人一人の性格や考えを考慮し気持ちよく過ごしていただけるよう対応している。	慣れから気安い言葉使いにならぬよう注意している。とくにトイレ誘導などには直接的な言い方ではなく、尊厳を損なわない言葉かけを心がけている。書類は事務所内できちんと保管がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の状態を把握し、適切な対応を行うことで可能な限り自己決定に基づいた行動ができるよう支援している。満足度は完全に把握するのは難しいが、思いや希望を伝えやすい環境作りをこころがけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者全ての希望に沿うのは難しいが、できる限り個人の希望に沿って支援している。食事、排泄、入浴など個人個人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧の手伝い、衣類洗濯、毛染め、髭剃りなど、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう好みも取り入れ出来る範囲で対応している。個々の能力に応じ、できることを一緒に行っている。	元気な利用者が調理の準備に会話も弾んで職員と一緒にされている。食事は3つのテーブルに分かれて、職員の介助を受けながら食されている。食材は業者の配達である。誕生日などは特別お好みメニューが提供される。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	きざみ食、ペースト、栄養補助食品もとり入れそれぞれの状態に合わせて必要な栄養、水分が摂取できるよう個人別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は出来ていない。夕食後のみ一人一人の口腔状態、本人の能力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表をもとにさりげなく声をかけ、排泄の介助を行っている。自ら訴えある方もみられる。可能な限り失禁を減らすことを目的にポータブルトイレを使用してもらっている方もいる。	排泄のパターンを把握し、トイレでの排泄を誘導しているが重度化に伴い困難な方もある。便のコントロールにも注意し、便秘には3日を目途に下剤等で対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等を多く摂り、散歩等の運動の働きかけを行っている。個人の希望に沿い、毎日ヨーグルトを食べたり、栄養補助食品を摂ったりする利用者もおられ、予防の支援をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望を聴き、毎日入浴される方や2日に1回の方、個人個人の希望に沿い支援を行っている。	毎日風呂は沸かすが、一日おきに入る方がほとんどである。時間帯は午後1時半～4時半ころである。便汚染があれば、シャワーを使って清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望により照明の明るさを調節したり、エアコンや電気アンカを使用し、快適な環境で安眠が出来るよう支援している。日中も個人の生活のペースを尊重し、状況に応じて休息をとってもらったりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりがどのような薬を服用しているのか把握し、処方の変更があれば申し送りを行っている。援助方法も手渡しや口の中に入れるなど個人の状態に応じて行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を理解しできる役割を見つけ、喜びを持って過ごせるよう支援している。また、誕生会には状態を十分に把握した上でお酒を飲み、楽しいひと時を過ごしてもらうこともある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望により散歩や買い物に行ったり、喫茶店にでかけたりしている。家族に協力を求め、家族と共に外出できるよう支援している。	昨年春、中庭にフェンスをつけ、ベンチが置かれ、自由に出入りでき、暖かい日は利用者のひなたぼっこの場になっている。化粧品の買い物や喫茶店へ行くなどのお出かけは利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方に対してはお金を所持してもらい、買い物にでかけた時などは自分で支払いを行ってもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人に手紙を書くことをすすめたり、散歩途中に投函したり、本人と家族が電話で直接会話が出来るように支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる貼り絵をしたり、花を飾ったり利用者の嗜好に合わせて活動している。物の配置はゆったりできるような広く場所をとって行っている。和室の利用はできていない。コタツを置いてみる、など有効な利用方法を検討している。	畳のコーナーにはマッサージ器が置かれ、足の痛い利用者が使われている。リビングはゆったりした空間で、日も差し、明るく、気になる臭いもない。花が飾られ、利用者も楽しく談笑されてあたたかな雰囲気が伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った方同士が集まったり、談話、ゲームに参加している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の写真や使い慣れた物、毎日の生活において本人が必要とするものを置いてもらったりしている。	クローゼットが広く収納されている。使い慣れた椅子や筆筒などが置かれている。なつかしい写真などが飾れて、それぞれ思い思いの居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差の解消や手すりの設置など日常生活における安全の確保、トイレや風呂場など見やすい場所に表記を設ける、といった工夫を行っており、利用者が快適に生活できるよう設備、環境を整えている。		